



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911

株主通信

YBHD NEWS No.42

平成27年6月

第151回定時株主総会決議ご通知
第151期報告書



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective





代表取締役社長

吉井 久司

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第151期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)事業年度が終了しましたので、その概況をご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減や夏の天候不順の影響に加え、輸入物価の上昇等により年度前半には実質GDP成長率がマイナスとなりましたが、株価上昇や良好な雇用環境等により景気回復が確かなものになりつつあります。

一方、当社グループを取り巻く事業環境につきましては、東京オリンピック関連工事・リニア新幹線工事の着工、首都高速道路等の大規模更新・大規模修繕の事業化等明るい兆しもありますものの、国内新設橋梁の総発注量が23万トン余りに止まり(前期27万トン強)、依然熾烈な受注競争が続くなど、大変厳しい状況で推移しました。

このような環境下でありまして、当社グループの業績は後ほど申し上げる結果となりました。

平成27年6月26日に第151回定時株主総会を開催し、報告事項についてご報告し、議案についてご承認いただきましたので、後記のとおりご報告申し上げます。

第3次中期経営計画において掲げました「肥大化したグループを筋肉質で強固な企業基盤を有するグループに再構築する」の基本方針のもと、10月1日に当社の完全子会社であります株式会社横河ブリッジと横河工事株式会社との合併を行い、グループ内の組織を再編いたします。今後も本年2月に立ち上げました「グループ戦略会議」にてグループ内の諸問題を解決しスピード感を持って経営を行ってまいります。

当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つとして認識し、業績ならびに今後の事業展開に伴う資金需要等を総合的に勘案のうえ、安定した配当を継続することを基本方針としております。当期の期末配当金につきましては、この方針に基づき、1株につき8円とし、中間配当金を含め年間で14円とさせていただきます。

厳しい事業環境が続きますが、グループ一丸となり、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

第151回定時株主総会決議ご通知

平成27年6月26日開催の当社第151回定時株主総会におきまして、以下のとおり報告ならびに決議されましたのでご報告申し上げます。

- 報告事項**
- 第151期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。
 - 第151期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案 剰余金の配当の件

本件は、原案どおり承認可決されました。
(期末配当金は1株につき8円と決定いたしました。)

第2号議案 定款一部変更の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

第3号議案 取締役1名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、取締役に北田幹直氏が新たに選任され、就任いたしました。
なお、北田幹直氏は、社外取締役であります。

第4号議案 監査役3名選任の件

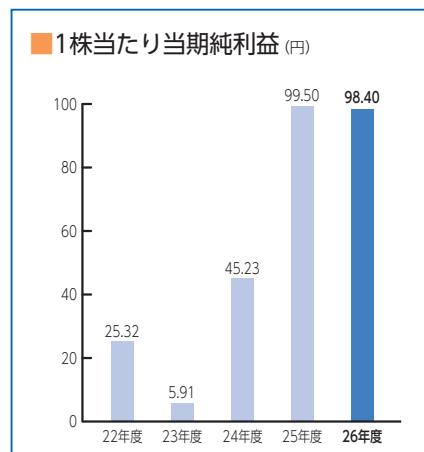
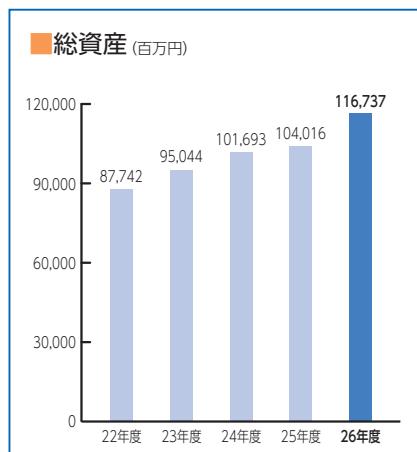
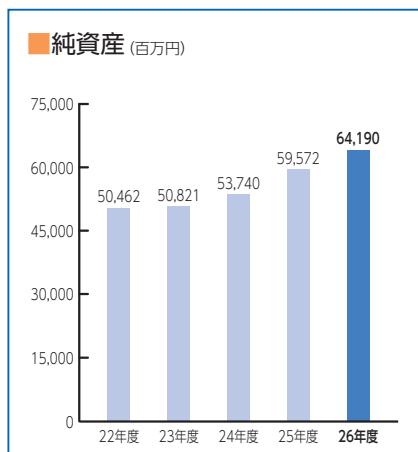
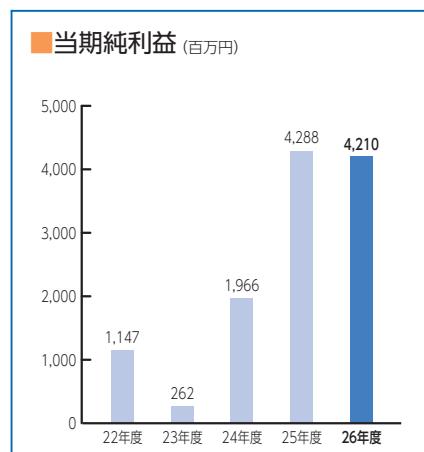
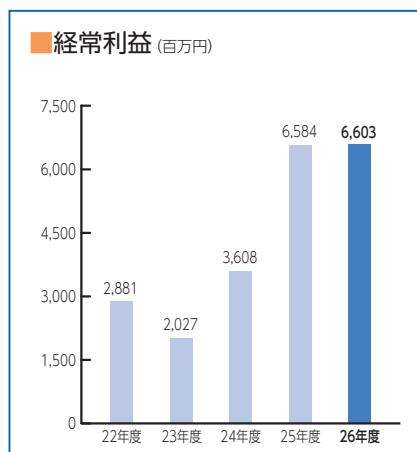
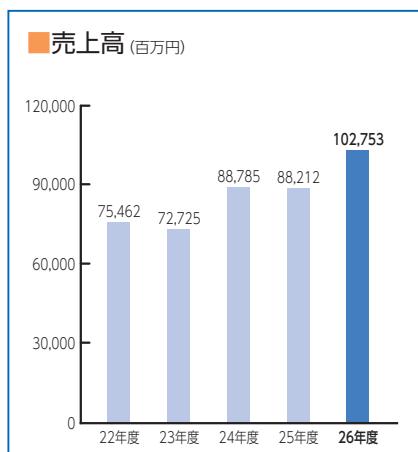
本件は、原案どおり承認可決され、監査役に北爪恒平、深沢誠、八木和則の3氏が再選され、それぞれ就任いたしました。
なお、八木和則氏は、社外監査役であります。

以上

本総会終了後開催いたしました監査役会において、北爪恒平、深沢誠の2氏が常勤監査役に選定され、それぞれ就任いたしました。

なお、平成27年6月26日付で取締役を退任いたしました玉井尚治氏は、株式会社横河ブリッジ常務取締役役に就任いたしました。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高 (百万円)	75,462	72,725	88,785	88,212	102,753
経常利益 (百万円)	2,881	2,027	3,608	6,584	6,603
当期純利益 (百万円)	1,147	262	1,966	4,288	4,210



複合構造のスタジアム建築工事をご紹介します！

神奈川県川崎市のスポーツや文化施設が集まる等々力緑地公園内に、サッカーJリーグ川崎フロンターレのホームグラウンドとなっている等々力競技場メインスタンド改築工事(図-1参照)を、横河工務株式会社が施工しましたのでご紹介します。

発注者	川崎市
施工体制	元請 大成・飛島・小川・沼田・日本設計共同企業体 一次下請 横河工務株式会社
施工範囲	建方工事
施工数量	プレキャストコンクリート(2,000m ³) 鉄骨 (1,300t) ケーブル(125φ×20m) (20台)
当社工期	2014年3月～2015年2月(12ヶ月)



図-1 等々力競技場立体図

本物件は、観客席を確保した上で競技場を運営しながら施工しました。構造は、3階までが在来RC造、3階立ち上がり柱及び4階がプレキャストコンクリート造(以下PCa造と略します)、5・6階及び屋根が鉄骨造で、バックステーケーブルを使用した特殊な複合キャンチレバー構造です(図-2参照)。

橋梁工事に他に特殊建築物の施工を得意としている同社は、元請からPCaと鉄骨部材の建方工事の依頼を受け、プロジェクトに参画しました。

本工事の特徴は、構造の「要」となっているPCa造の斜柱(長さ20m、重量56t)を、500tクローラクレーンで吊り上げ(写真-1参照)安全第一で作業に従事し、要求された品質を20箇所均一に施工することでした。適正な仮設機材を選定し、建方時の部材への負荷を最小限に留め、安定性を確保する施工技術は、元請から大きな信頼と評価をいただけたと思います。

横河工務株式会社は、各工事における要求事項に対し、お客様に満足していただける技術提案ができるよう、橋梁架設・橋梁保全・建築工事の技術を日々磨き、合併後も横河ブリッジホールディングスグループの一員として社会に貢献していきたいと考えます。



図-2 新設メインスタンド断面



写真-1 現場施工状況



写真-2 メインスタンド全景

■ 連結貸借対照表

	前期	当期
	平成26年3月31日現在	平成27年3月31日現在
資産の部		
流動資産	68,372	76,386
現金預金	17,514	13,298
受取手形・完成工事未収入金等	41,888	55,297
有価証券	3,514	2,903
たな卸資産	1,240	1,144
繰延税金資産	2,089	2,144
その他	2,132	1,635
貸倒引当金	△ 7	△ 37
固定資産	35,643	40,351
有形固定資産	18,391	18,233
建物・構築物(純額)	6,237	6,067
機械装置及び運搬具(純額)	1,741	2,104
土地	10,081	9,760
建設仮勘定	97	43
その他(純額)	233	257
無形固定資産	907	903
ソフトウェア	831	827
その他	76	76
投資その他の資産	16,344	21,214
投資有価証券	15,085	17,929
関係会社株式	80	122
退職給付に係る資産	242	371
繰延税金資産	433	2,181
その他	543	632
貸倒引当金	△ 39	△ 23
資産合計	104,016	116,737

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成26年3月31日現在	平成27年3月31日現在
負債の部		
流動負債	30,457	35,007
支払手形・工事未払金等	17,662	19,655
短期借入金	50	5,700
1年内返済予定の長期借入金	1,008	-
未払法人税等	728	1,138
未成工事受入金	3,950	1,324
工事損失引当金	3,674	2,351
賞与引当金	1,793	1,808
その他の引当金	85	64
その他	1,504	2,964
固定負債	13,986	17,539
社債	2,500	2,500
長期借入金	3,500	3,800
繰延税金負債	32	2,651
役員退職慰労引当金	696	570
退職給付に係る負債	6,784	7,613
その他	472	404
負債合計	44,443	52,546
純資産の部		
株主資本	56,974	58,082
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,089	10,089
利益剰余金	39,156	40,693
自己株式	△ 1,707	△ 2,135
その他の包括利益累計額	1,764	5,112
その他有価証券評価差額金	3,826	5,625
土地再評価差額金	△ 2,372	△ 947
退職給付に係る調整累計額	310	434
少数株主持分	834	995
純資産合計	59,572	64,190
負債純資産合計	104,016	116,737

■ 連結損益計算書

	前期	当期
	平成25年4月1日から平成26年3月31日まで	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
売上高	88,212	102,753
売上原価	74,849	88,658
売上総利益	13,363	14,095
販売費及び一般管理費	6,834	7,693
営業利益	6,528	6,401
営業外収益	331	416
営業外費用	274	214
経常利益	6,584	6,603
特別利益	644	135
特別損失	320	202
税金等調整前当期純利益	6,908	6,537
法人税、住民税及び事業税	1,173	1,550
法人税等調整額	1,333	614
少数株主損益調整前当期純利益	4,401	4,371
少数株主利益	112	161
当期純利益	4,288	4,210

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

	前期	当期
	平成25年4月1日から平成26年3月31日まで	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,266	△ 7,385
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,230	△ 2,245
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,056	3,998
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3	16
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,436	△ 5,615
現金及び現金同等物の期首残高	15,450	19,886
現金及び現金同等物の期末残高	19,886	14,271

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

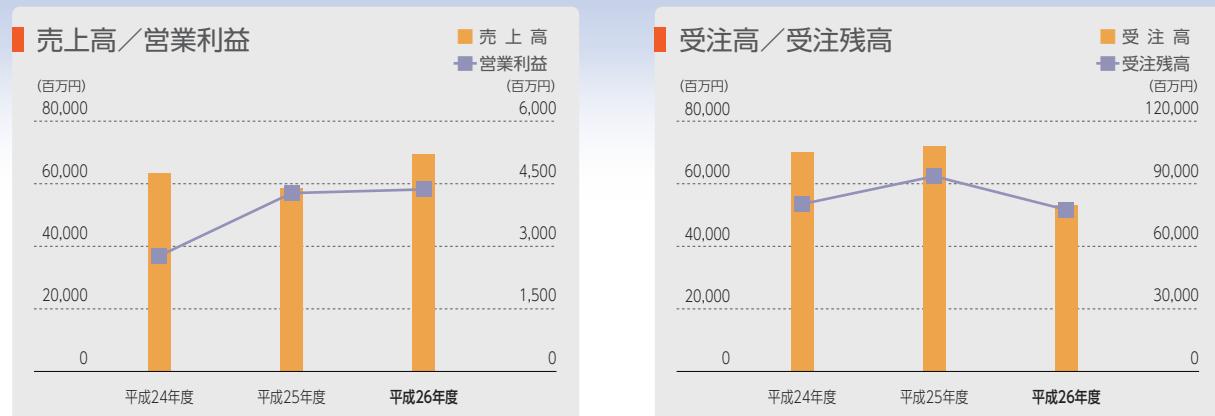
■ 連結株主資本等変動計算書

	当期				株主資本		その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで				資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
当期首残高	9,435	10,089	39,156	△ 1,707	56,974	3,826	△ 2,372	310	1,764	834	59,572	
会計方針の変更による累積的影響額			△ 734		△ 734						△ 734	
遡及処理後当連結会計年度期首残高	9,435	10,089	38,422	△ 1,707	56,240	3,826	△ 2,372	310	1,764	834	58,838	
当期変動額												
剰余金の配当			△ 514		△ 514						△ 514	
当期純利益			4,210		4,210						4,210	
自己株式の取得				△ 428	△ 428						△ 428	
自己株式の処分			0	0	0						0	
土地再評価差額金の取崩			△ 1,424		△ 1,424						△ 1,424	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						1,799	1,424	124	3,348	161	3,509	
当期変動額合計	-	0	2,270	△ 428	1,842	1,799	1,424	124	3,348	161	5,352	
当期末残高	9,435	10,089	40,693	△ 2,135	58,082	5,625	△ 947	434	5,112	995	64,190	

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

セグメント別の状況

1 橋梁事業



(単位:百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	63,260	58,685	69,325
営業利益	2,772	4,276	4,366
受注高	70,041	72,037	53,229
受注残高	80,233	93,586	77,490

当期の経営成績

- 国内新設橋梁の需要がここ数年低迷する中で、当社グループは前々期・前期と過去最高を更新する好調な受注が続きましたため、当期は応札に必要な配置予定技術者が慢性的に逼迫し、応札案件の絞り込みを余儀なくされました。また、新設橋梁の総合評価落札方式におきましては、引き続き高い技術評価点を獲得し、受注を積み重ねることができましたものの、大型工事での惜敗も少なからず散見される結果となりました。
- 売上高につきましては豊富な手持工事が順調に進捗しましたため、前期を大きく上回りました。

今後の取り組み

- 当期の国内新設橋梁の発注量は、大型工事の発注見送り等も影響し、昭和40年以來の半世紀で最低水準となりましたが、三陸沿岸道路、横浜環状北西線、新東名高速神奈川区間、名古屋第二環状等の発注が次期以降も見込まれますため、当面さらなる発注量の落ち込みはないと考えております。
- 橋梁の定期点検の義務付けと高速道路の大規模更新・大規模修繕事業の本格化等により保全事業の需要拡大は確実であり、収益の大きな柱とすべく、当社グループを挙げて取り組んでまいります。
- 来期の業績は、売上高680億円、営業利益41億円と予想しております。

2 エンジニアリング関連事業



(単位:百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	23,048	26,132	30,045
営業利益	1,163	2,380	2,248
受注高	21,924	29,064	46,913
受注残高	10,474	13,406	30,274

当期の経営成績

- 物流倉庫などの需要が底堅く推移しましたため、システム建築事業の受注が5期連続で伸長し、さらに土木関連事業のシールドトンネル用セグメントの大型受注がありました。
- 売上高につきましては受注の増加に伴い前期を上回りましたが、固定費の増加により営業利益は若干の減益となりました。

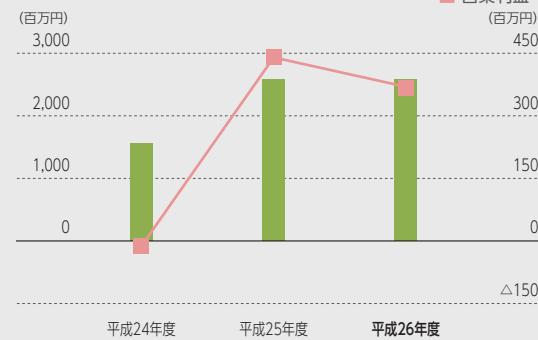
今後の取り組み

- 東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて一時的な需要の高まりが予想されるなか、業績の伸長が著しいシステム建築につきましては、営業力の強化で更なるシェアアップを目指します。
- 土木関連事業につきましては、トンネル用セグメント、海洋構造物、港湾構造物等へ積極的に取り組み、橋梁以外の鋼構造物に関する事業の拡大に努めてまいります。
- 来期の業績は、売上高338億円、営業利益24億円と予想しております。

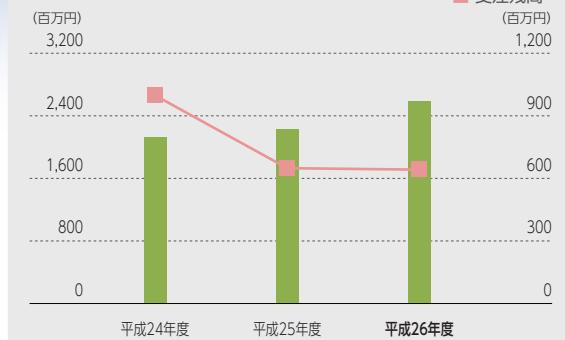
※橋梁事業とエンジニアリング関連事業(旧建築環境事業)の営業利益について過去の数値は変更を行っておりません。

3 先端技術事業

売上高／営業利益



受注高／受注残高



(単位:百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	1,552	2,581	2,588
営業利益	△12	440	370
受注高	2,134	2,233	2,589
受注残高	998	649	650

当期の経営成績

・精密機器製造事業の液晶パネル製造装置関連の需要が堅調に推移しましたため、受注高は前期を上回りました。

今後の取り組み

・引き続き新製品の開発、新規顧客の開拓に努めてまいります。
 ・来期の業績は、売上高25億円、営業利益3億円と予想しております。

4 不動産事業

当期の経営成績・今後の取り組み

・安定的な収入と利益を確保することができました。
 ・来期の業績は、売上高7億円、営業利益4億円と予想しております。

株式の状況

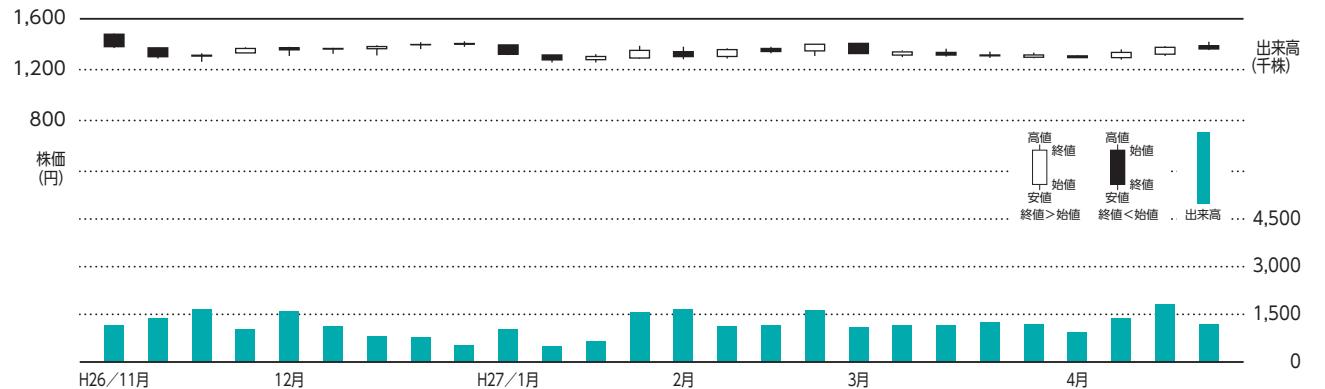
発行可能株式総数…………… 180,000,000株
 発行済株式総数…………… 45,564,802株
 株主数…………… 7,471名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスト・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,891千	6.79
横河電機株式会社	2,793千	6.56
新日鐵住金株式会社	1,987千	4.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,211千	2.84
株式会社みずほ銀行	890千	2.09
住友不動産株式会社	674千	1.58
東プレ株式会社	616千	1.44
野村信託銀行株式会社(投信口)	614千	1.44
株式会社ユーシン	601千	1.41
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	598千	1.40

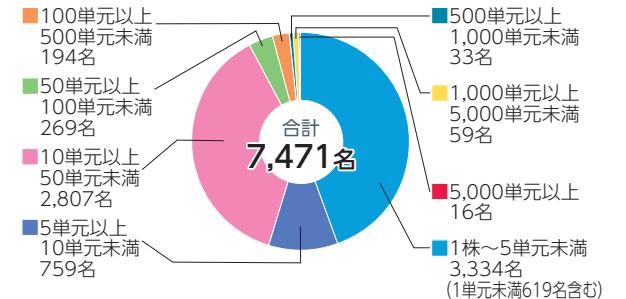
(注) 1. 当社は、自己株式を3,011,431株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移

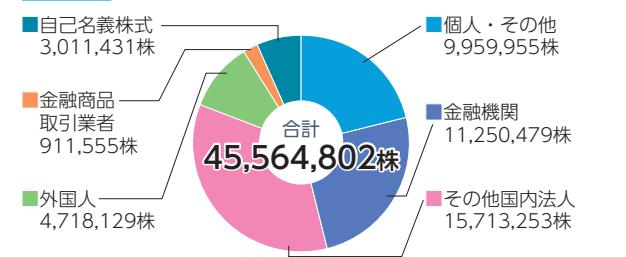


株式分布状況

株式所有数



株式数



会社概要

Corporate Data

■ 会社概要

社名 株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地 〒108-0023
東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL:03-3453-4111(代表)

資本金 9,435百万円
主な機能 経営戦略、法務・監査、経理・財務
総務・人事、IR・広報、技術研究開発

■ 役員一覧 (平成27年6月26日現在)

代表取締役会長	吉田明	
代表取締役社長	藤井久司	
取締役	高木清次	
取締役	名取暢	
取締役	猪岡修治	
取締役	金子俊一	
取締役	高田和彦	
取締役	北田幹直	(社外取締役)
常勤監査役	北爪恒平	
常勤監査役	深沢誠	
監査役	志々目昌史	(社外監査役)
監査役	八木和則	(社外監査役)
監査役	西山重良	(社外監査役)

伊良部大橋(いらぶおおはし)。全長3540mで沖縄県宮古島と伊良部島を結ぶ離島架橋で、無料で通行できる橋としては国内最長です。当社が製作・施工したのは主航路部で3径間連続鋼床箱桁部分です。

写真上:伊良部島側から当社が施工した主航路部を望む

写真下:宮古島側から望む全景

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、毎年9月30日
交付株主確定日 毎年6月下旬
定時株主総会 100株
単元株式数 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233
株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社
本店および全国各支店
公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.ybhd.co.jp/>

■ YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造



横河工事株式会社
土木・建築・保全



株式会社 横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河住金ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 檜崎製作所
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



株式会社 横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイ・シー・イー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表)

<http://www.ybhd.co.jp/>

